

京都帝國大學新聞

創立四十一年
慶びの記念日近づく
六月十八日祝賀式舉行

行發 日二月
二年四月
二年五月
二年六月
二年七月
二年八月
二年九月
二年十月
二年十一月
二年十二月

支店 東京
支店 大阪
支店 京都
支店 神戶
支店 名古屋
支店 福岡

創立四十一年 慶びの記念日近づく

六月十八日祝賀式舉行

創立四十一年の慶びを記念して、六月十八日、本校講堂にて祝賀式が盛大に挙行された。式には、各界の要人が多く出席し、本校の歴史と現状が紹介された。校長の祝詞では、四十一年の歩みを振り返り、今後の発展を期すことが述べられた。式後は、各界の要人と懇話会が開かれ、本校の教育方針について話し合われた。

新緑映ゆる下 宣誓式舉行さる

去る十四日・厳肅裡に

去る十四日、本校講堂にて新入生宣誓式が厳肅な雰囲気の中で挙行された。式には、新入生、教職員、関係者などが参加した。校長の訓詞では、新入生に誠実な態度と努力を求め、社会に貢献することを奨励された。宣誓式は、新入生が「誠実、努力、責任」を誓うことで幕を閉じた。

高等試験令改正案 行政の必須は五科目 根本的の改革は今後

高等試験令の改正案が提出された。この改正案では、行政の必須科目として五科目が定められた。これは、行政の効率化と専門性の向上を図るための根本的の改革と見られる。今後、この改正案が施行されることで、行政の質が向上すると期待されている。

東洋文明と日本文明

長谷川如是閑氏講演



長谷川如是閑氏は、東洋文明と日本文明の関係を論じた。彼は、日本文明が東洋文明の一部であり、独自の発展を遂げたことを指摘した。また、東洋文明の共通性を強調し、相互理解の重要性を述べた。

支店 東京
支店 大阪
支店 京都
支店 神戶
支店 名古屋
支店 福岡

宣誓式告辞

演田耕作

宣誓式に出席した演田耕作氏は、自身の経験から、宣誓の意味と責任について語った。彼は、宣誓は単なる形式ではなく、心からの決意と責任の重さを伴うものであると述べた。また、社会に貢献するために努力することを呼びかけた。

高文委員決定す

高文委員の決定が発表された。委員は、本校の文藝活動を促進し、学生間の交流を深める役割を担うことになった。委員は、文藝大会の開催や、文芸サークルの支援などを行う予定である。



西田博士に次いで 高山岩男氏登壇

西田博士に続いて、高山岩男氏が登壇した。氏は、自身の研究分野について詳しく説明し、最新の研究成果を発表した。聴衆からは、多くの質問が寄せられた。

山本教授辞表提出 懸案の難問解決へ

山本教授の辞表提出が、本校の懸案の一つであった。この辞表提出は、山本教授の健康状態や、他の責任との兼ね合いなどが理由とされている。本校は、この問題を慎重に検討し、適切な対応を講じていく方針である。

戦時経済を主題に 本学経済学会開く

本学経済学会が、戦時経済を主題に開かれた。学会では、戦時下の経済状況や、戦後の経済復興について議論が行われた。参加者は、戦時経済の特殊性や、戦後の経済政策について意見を述べた。

犯罪理論の最高水準見事成る！
高文受験者待望無二の参考文獻

犯罪論序説

最新刊

瀧川幸辰著

定價 四十八銭

経済學断片

堀尾正助著

定價 四十八銭

輸出取引

虎尾正助著

定價 四十八銭

近關西學界展望

文友堂書店

山本教授辞表提出
懸案の難問解決へ

戦時経済を主題に
本学経済学会開く

花と散つた

真積祥少著

中支戦線の
花と散つた

真積祥少著

花と散つた

真積祥少著

新開店
お便利なパンの店

毎朝パンの學生さんに大奉仕

神戸パン

おいしいパン
便利なパン店
百万通電停前
電話 31734

國試家國

日五十月五 號 第十 卷 十 第 訂定

銀二金・料銀 銀十六金

輸出取引

虎尾正助著

定價 四十八銭

犯罪論序説

瀧川幸辰著

定價 四十八銭

經濟學断片

堀尾正助著

定價 四十八銭

近關西學界展望

文友堂書店

死して生きる!

田邊博士熱辯を揮ふ

映畫科學者の途も同時上映 溢れたその夜の感激

學友會 會迎款員會新

新學友會の會迎款員會は、五月十日(日)午後八時、本會館(東京市丸の内區)で、田邊博士の熱辯を揮ふの映畫を上映し、同時上映として、科學者の途も同時上映する。この夜は、田邊博士の熱辯を揮ふの映畫が、科學者の途の映畫と共に、大衆の心を打ち、感動を與へた。この夜は、田邊博士の熱辯を揮ふの映畫が、科學者の途の映畫と共に、大衆の心を打ち、感動を與へた。この夜は、田邊博士の熱辯を揮ふの映畫が、科學者の途の映畫と共に、大衆の心を打ち、感動を與へた。

大學論は學生の手で

學友會學藝論文集 締切は九月十五日

學友會の學藝論文集は、大學論をテーマとして、學生の手で書かれた論文を集めた。この論文集は、大學の現状や未來について、學生の視点から論議されている。締切は九月十五日である。

近藤教授支那

觀察より歸る

學生諸君に與ふ

田邊元

(講演要旨)

田邊元先生の講演は、學生諸君に對して、社會生活や學業について、多くの教訓を與へた。先生の熱い語りかけは、學生の心を打ち、感動を與へた。



ビールに舌鼓打つ

有信會・社會見學

有信會の社會見學は、ビール工場を訪れ、ビール製造の工程や設備を視察した。この見學は、學生の知識を深め、社會生活について理解を深めた。

有信會の社會見學は、ビール工場を訪れ、ビール製造の工程や設備を視察した。この見學は、學生の知識を深め、社會生活について理解を深めた。

軌道に乗る

憲法研究会

憲法研究会は、憲法について研究し、その意義や役割について論議している。この研究会は、學生の憲法知識を深め、社會生活について理解を深めた。

學生間に高まる

食堂改善の要望

學生の間には、食堂の改善を要望する声が高まっている。學生は、食堂の環境やサービスの向上を望んでいる。

物凄く就職風景

謝絶に汗だくの工學部

工學部の就職風景は、物凄く競争が激しい。多くの學生が就職先を求め、汗を流している。就職難の状況が、學生の間で広がっている。

瀧川氏を圍んで

刑法座談會盛況

瀧川氏の刑法座談會は、盛況を博した。多くの學生が参加し、刑法について熱く論議した。

初夏の樂團を飾る

本學交響樂團大演奏會

本學交響樂團の大演奏會は、初夏の季節を飾る。多くの學生が参加し、美しい演奏を聴いた。



戦球野員職

む進に進取決進

野球部の選手たちは、練習を積み重ね、試合に臨んでいる。選手たちは、勝利を目指して奮闘している。

本誌技部四年連覇

本學學生技藝大會

本學學生技藝大會で、本誌技部が四年連続で優勝した。これは、本誌技部の技術と努力の結晶である。

港都情報

七月十一日

港都情報：七月十一日の東京のニュースやイベントに関する情報。

總會主催 高眞展

八月二日

總會主催の高眞展は、八月二日に開催される。高眞の作品を展示し、その芸術的価値を評価する。

總會主催の高眞展は、八月二日に開催される。高眞の作品を展示し、その芸術的価値を評価する。

The Study of English

英語研究

6月號 (第百五號)

視野を擴めよ、生きた英語の武器をとれ!

○英文新聞(文科) 漢語第一編 ○英語會話(理科) 漢語第二編
 ○英文新聞(理科) 漢語第二編 ○英語會話(文科) 漢語第一編
 ○英文新聞(理科) 漢語第二編 ○英語會話(文科) 漢語第一編

東京にぎり
 電話 3140番

獨逸へ!

來れドイツへ

獨逸國有鐵道中央觀光局日本支局

東京にぎり
 電話 3140番

尺八

大日本竹道連會本部道場

電話 上七七八

小山齒科醫院

院長 小山正光

電話 上五八二

自由を我等に

自由を我等に

電話 上五八二



歴史の辨證法的理解

水田廣志氏の日本
「對憲制」(一九四一年)

島井博 著

本書は、憲法論者としての水田氏の著述である。水田氏は、日本憲法の歴史を、単なる法律の史的考察としてではなく、歴史の辨證法的理解として捉えている。彼は、日本憲法の成立と発展を、日本の政治的・社会的変遷と密接に関連させて考察している。特に、明治維新以降の憲法制定の経緯、大正憲法と昭和憲法の比較、そして戦時体制下の憲法論争について、鋭い批判的視点から論じている。水田氏の著述は、憲法学者の間で高く評価されており、本書はその精華をまとめたものである。

風早八十二氏著 「日本社會政策史」

關東学院の社會政策史

關東学院 關東英太郎 著

本書は、日本社會政策史の概論である。著者は、明治維新以降の日本社會政策の発展を、国家主義的社會政策から民生主義的社會政策へと変遷する過程を詳細に分析している。特に、大正時代の社會政策の展開と、昭和時代の社會政策の急激な変遷について、重要な論点を提示している。本書は、社會政策の歴史を学ぶ上で不可欠の参考書である。

現憲解釋から變革へ 讀書について

皇 實

本書は、現行憲法の解釋と變革のあり方について論じている。著者は、憲法の解釋が単なる法律の適用を超えて、政治的・社会的な変革を促す役割を果たすべきであると主張している。特に、戦後憲法改正の議論について、独自の視点から論じている。本書は、憲法論者や政治学者にとって重要な読書である。

高田保馬博士著 「經濟學概論」

大 熊 信 行

本書は、經濟學の概論である。著者は、現代經濟學の主要な理論と実践について、体系的に解説している。特に、市場経済の原理と政府の役割について、重要な論点を提示している。本書は、經濟學の初学者にとって最適な入門書である。

諸藝術との交流

今村太平 著

海 盛 英 夫

本書は、藝術と社會との交流について論じている。著者は、藝術が社會を反映し、社會を変革する力を持っていると主張している。特に、戦時体制下の藝術と戦後民主主義の発展について、重要な論点を提示している。本書は、藝術史や社會学を学ぶ上で重要な参考書である。

新刊短評

航空三人の婦人

本書は、航空三人の婦人に関する短評である。著者は、この作品が、戦時体制下の女性像を描き出すことに成功していることを高く評価している。特に、主人公の苦悩と奮闘について、鋭い洞察を提示している。本書は、文学批評の観点から重要な読書である。

京 都 日 出 新 聞

信用のある

明るい新聞

京都では

日出新聞

業界の
最高指針

染織日出新聞